

製品安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名称 スミペックス E (SUMIPEX E)

製品番号 (SDS NO) BQN-G-41335_JP-1

製品種類

本製品は成形品(アクリル板)である。

作業工程で発生する粉じん/煙を考慮して混合物としてGHS分類を行なった。

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 各種窓、水槽、家具、看板、仕切り板

使用上の制限 推奨用途以外に使用しないこと

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 三菱電機株式会社

住所 愛知県名古屋市東区矢田南5丁目1番14号

担当部署 産業メカトロニクス製作所 レーザシステム部

電話番号 052-721-2111

FAX 番号 052-721-1941

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚感作性 : 区分 1

発がん性 : 区分 1B

(注) 記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

注意喚起語：危険



危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

発がんのおそれ

注意書き

安全対策

粉じん/煙を吸入しないこと。

保護手袋を着用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

特別な処置が必要である。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
アクリル酸メチル・メタクリル酸メチル重合物	9011-87-4	>=95.3	6-553
メタクリル酸メチル	80-62-6	< 1.0	2-1036
アクリル酸メチル	96-33-3	< 0.5	2-987

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

重量%の通知により当社の利益を不当に害するおそれのあるものは、成分表にて含有量を幅表示にしています。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

メタクリル酸メチル , アクリル酸メチル

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合（作業工程で発生する粉じん/煙）

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

被災者を温め、安静にする。

呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。

呼吸困難のときは酸素吸入を行う。

直ちに医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合（溶融物もしくは作業工程で発生する粉じん/煙）

溶融物が皮膚に接触した場合は、直ちに大量の流水で皮膚とポリマーを冷やすこと。

皮膚を剥がすおそれがあるので、ポリマーを取り除こうとしないこと。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合（作業工程で発生する粉じん/煙）

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼をこすらせてはならない。

直ちに医師の診察/手当を受けること。

飲み込んだ場合 (作業工程で発生する粉じん/煙)

口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。

意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。

直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

特有の危険有害性

火災のとき大量の黒煙が発生する。

燃焼の際に有毒な炭素酸化物、メタクリル酸メチル、アクリル酸メチルを生成する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

(作業工程で生じる粉じん/煙が漏出した場合)

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

粉じんが飛散しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

作業工程で発生する粉じん/煙の吸入を避けること。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

作業工程で発生する粉じん/煙が皮膚に触れないようにする。

作業工程で発生する粉じん/煙が眼に入らないようにする。

作業工程で発生する粉じんの堆積を防止する。

安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

保護手袋を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避

強酸化性物質との接触を避けること。

衛生対策

作業工程で発生する粉じん/煙を眼、皮膚、衣類につけないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

(避けるべき保管条件)

直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

水濡れと湿気を避けること。

安全な容器包装材料

紙または樹脂フィルムで表面を保護すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度及び濃度基準値

(アクリル酸メチル)

濃度基準値 TWA: 2ppm

許容濃度

(メタクリル酸メチル)

日本産衛学会(2012) 2ppm; 8.3mg/m³

(アクリル酸メチル)

日本産衛学会(2004) 2ppm; 7mg/m³

(メタクリル酸メチル)

ACGIH(2015) TWA: 50ppm;

STEL: 100ppm (上気道及び眼刺激; 体重影響; 肺水腫)

(アクリル酸メチル)

ACGIH(2014) TWA: 2ppm (眼, 皮膚及び上気道刺激; 眼損傷)

[ACGIH] 特記事項

(メタクリル酸メチル)

皮膚感作性

(アクリル酸メチル)

皮膚吸収; 皮膚感作性

ばく露防止

設備対策

密閉された装置を使用する。

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態 : 固体 (板状)

色 : 無色透明

臭い : 無臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点：明確な融点はなく、120℃以上の広い範囲で次第に軟化する。

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性（ガス、液体及び固体）：可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点データなし

自然発火点： $\geq 400^{\circ}\text{C}$

分解温度データなし

pHデータなし

動粘性率：適用外

溶解度：

水に対する溶解度：不溶

溶媒に対する溶解度：有機溶剤(アセトン、トルエン、クロロホルム等)に可溶

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

密度及び/又は相対密度：1.1 - 1.2

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

危険有害反応可能性データなし

避けるべき条件

直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

水濡れと湿気を避けること。

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解生成物

熱分解により以下の物質を生成する。

炭素酸化物、メタクリル酸メチル、アクリル酸メチル

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

rat LD50=7800mg/kg (ACGIH 7th, 2015),

7900mg/kg, 8500mg/kg, 9400mg/kg (ECETOC JACC30, 1995)

(アクリル酸メチル)

rat LD50=768 mg/kg (OECD TG 401相当) (CLH Report, 2021)

急性毒性 (経皮)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

rabbit LD50 > 5000mg/kg (EU-RAR, 2002)

(アクリル酸メチル)

rabbit LD50 = 1.3mL/kg (1239mg/kg) (ACGIH 7th, 2014)

急性毒性 (吸入)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

vapor: rat LC50=7093ppm/4hr (ECETOC JACC 30, 1995; EU-RAR, 2002; ACGIH 7th, 2015);

< 飽和蒸気圧濃度 (38614ppm) の90%

(アクリル酸メチル)

vapor:rat LC50=1350ppm/4hr(厚労省リスク評価書,2016et al.)<飽和蒸気圧濃度(113956ppm)の90%

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

ヒト 刺激性 (EU-RAR, 2002);

ラビット 刺激性 (EU-RAR, 2002);

EU CLP Skin Irrit. 2 (ECHA CL Invt., Access on Jun. 2017)

(アクリル酸メチル)

ラビット (OECD TG 404相当) 1時間適用群の紅斑・痂皮スコア: 2/2/2/2/2/3、

浮腫スコア: 2/3/34時間適用群の紅斑・痂皮スコア: 2/2.7/2.7/2/3/2.3、浮腫スコア: 2.3/3/3/1.3/2/2.3、
紅斑及び浮腫、7日後に壊死(深層に至る壊死及び表層壊死)と明確な紅斑 (厚労省 リスク評価書, 2016)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

ラビット 刺激性 (EU-RAR No.22, 2002; ACGIH 7th, 2015)

(アクリル酸メチル)

皮膚腐食性/刺激性 区分1

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

cat. 1; (産衛学会, 2012)

皮膚感作性

[製品]

区分 1, アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

cat. 1; (EU-RAR No.22, 2002; 産衛学会, 2012; EU CLP (ECHA CL Invt., Access on Jun. 2017))

(アクリル酸メチル)

cat. 1A; (日本産業衛生学会 感作性分類 皮膚第2群 (産衛学会 許容濃度の勧告等, 2021))

生殖細胞変異原性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

発がん性

[製品]

区分 1B, 発がんのおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(アクリル酸メチル)

cat.1B; (令和2年2月7日付け健康障害を防止するための指針公示第27号; IARC 122, 2019)

[IARC]

(メタクリル酸メチル)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(アクリル酸メチル)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

[ACGIH]

(メタクリル酸メチル)

A4(2015) : ヒト発がん性因子として分類できない

(アクリル酸メチル)

A4(2014) : ヒト発がん性因子として分類できない

[日本産衛学会]

(アクリル酸メチル)

第2群B : ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

生殖毒性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(アクリル酸メチル)

気道刺激性 (ACGIH 7th, 2014; 厚労省 リスク評価書, 2016)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

麻酔作用 (ECETOC JACC30, 1995; EU-RAR, 2002; NITE初期リスク評価書, 2008)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

誤えん有害性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=48mg/L/48hr (EURAR, 2002)

(アクリル酸メチル)

魚類 (シーブスヘッドミノー) LC50=1.1mg/L/96hr (SIAR, 2003)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸メチル)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC (繁殖阻害)=3.5mg/L/21days (環境省生態影響試験, 2017);

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)NOEC (速度法)= 86mg/L/72hr(環境省生態影響試験, 2017)

(アクリル酸メチル)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC=0.36mg/L/21days (MOE既存点検結果, 1999)

水溶解度

(メタクリル酸メチル)

1.6g/100mL (20℃) (ICSC, 2003)

(アクリル酸メチル)

6g/100mL (20℃) (ICSC, 2003)

残留性・分解性

[成分データ]

(メタクリル酸メチル)

BODによる分解度 : 94.3% (化審法DB, 1976)

(アクリル酸メチル)

急速分解性なし (OECD TG301D_BODによる分解度 : 59.8%/28 days (SIAR, 2003))

生体蓄積性

[成分データ]

(メタクリル酸メチル)

log Pow=1.38 (PHYSPROP DB, 2005);

Log Kow=1.38 (20℃) (環境省環境リスク評価 第11巻, 2013)

(アクリル酸メチル)

log Pow=0.8 (PHYSPROP DB, 2005)

土壌中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当)：非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Y類)

アクリル酸メチル; メタクリル酸メチル

MARPOL条約付属書V - HME(海洋環境に有害)

発がん性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

アクリル酸メチル

合成高分子化合物 (細断, 粉碎, 切断, 浸出した材料または同種の材料を含む)

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称通知危険/有害物

メタクリル酸メチル(別表第9の557); アクリル酸メチル(別表第9の6)

がん原性がある物 (規則第577条の2第5項)

アクリル酸メチル

皮膚等障害化学物質 (規則第594条の2)

アクリル酸メチル

化学物質管理促進(PRTR)法

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

労働基準法

疾病化学物質 (規則別表第1の2第4号1)

メタクリル酸メチル

感作性 [厚労省局長通達]

メタクリル酸メチル

消防法

指定可燃物

合成樹脂類_その他のもの (酸素指数 26未満のもの) (数量 3,000kg)

化審法

優先評価化学物質

アクリル酸メチル(通し番号31 人健康影響/生態影響)

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC) 法第2条第4項

メタクリル酸メチル

有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質

メタクリル酸メチル(中環審第9次答申(別表1)の229)

アクリル酸メチル(中環審第9次答申(別表1)の5)

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)
IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)
Supplier's data/information
GESTIS-Stoffdatenbank
Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和4年度 (2022年度))です。